

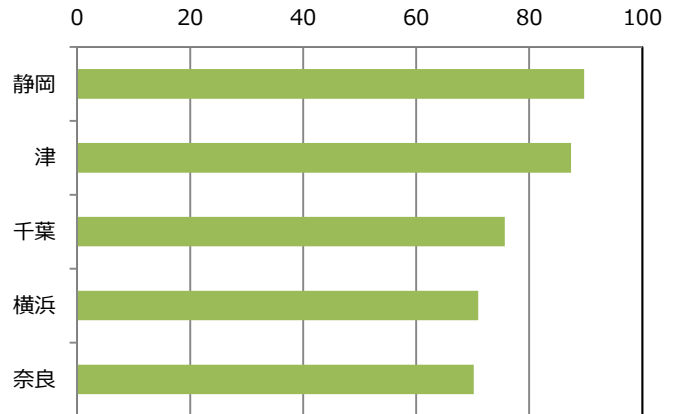
ハザードマップシステムの提案

VA306-6 徳増亮弥 中野稜太 樋江井敦斗 松井翔太郎 清水陽介

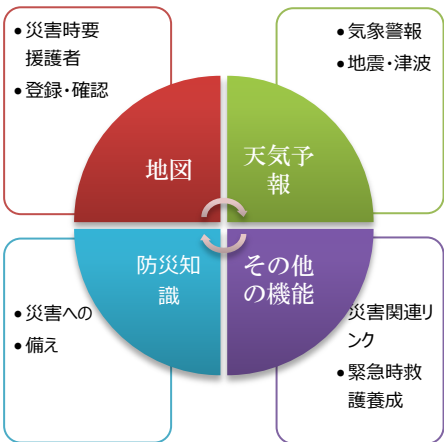
要求仕様

大地震発生確率が非常に高く、甚大な被害が懸念されている現在、それに対し十分な対策が成っている家庭は少ないとされている。(2012年東海地方地震対策研究所より)地震に対する認識はあっても、防災準備には至っていないのだ。そのため我々は主に最悪のケース、地震発生時の対応としてリアルタイムの電子ハザードマップの提案をする。これは大まかに震災発生前と発生時に分け、各々の最も適した情報を提供するシステムであり、避難の効率化と震災被害数の減少を目的とするものである。以下に機能の説明、実行計画の内容を示す。

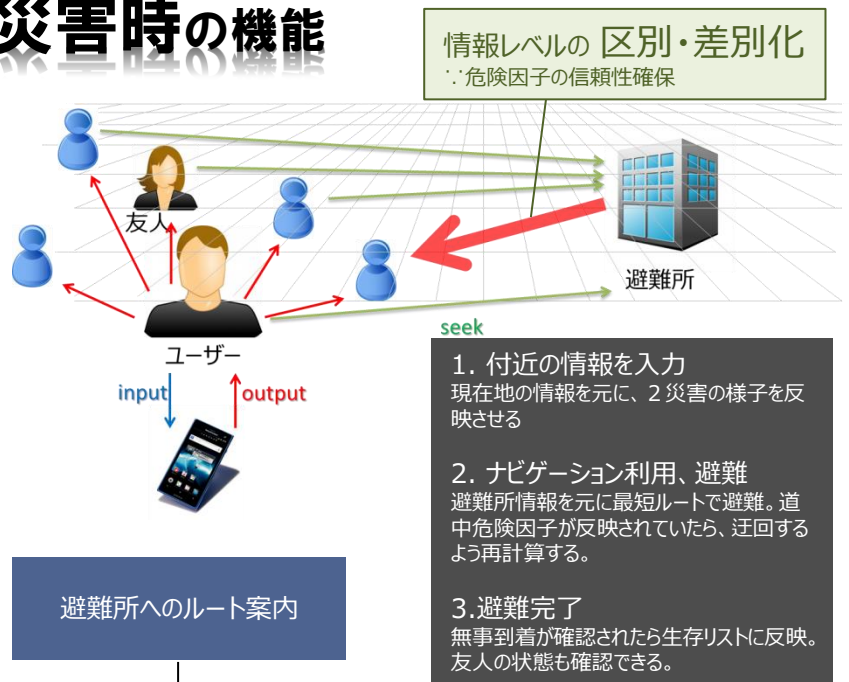
大地震予測発生確率[%]



通常時の機能



災害時の機能



実行計画

実行計画を行うため学生40人程度を対象に帰納的にシミュレーションをすることを挙げられたが、野々市市の人口と比較し、誤差率が高くなってしまったため、“アプリ使用時”と“アプリ未使用時”を区別化し、条件を変え、ランダムウォークを使用して検証することにした。

